

学校教育目標

確かな学力、たくましい心とからだ、豊かな創造力をもつ児童の育成

進んで学習する子

健康で明るい子

思いやりのある子

心をこめて

学年	基本的なめあて		
低	学習の仕方を身につけよう	元気に生活しよう	きまりを守って生活しよう
中	進んで学習しよう	元気で明るい生活をしよう	友だちにやさしくしよう
高	めあてをもって学習しよう	進んで体をきたえよう	進んでよいことをしよう

確かな学力を

今年の達成目標

○基礎的・基本的な内容を確実に身につける ○自分の考えを生き生きと表現できる

【標準学力テストの偏差値の向上（国語・算数・理科）を図る】

	国語	算数	理科
2年	偏差値 5.6 重点領域「話すこと・聞くこと」	偏差値 5.3 重点領域「数と計算」	
3年	偏差値 5.8 重点領域「伝統的な言語文化と国語の特質」	偏差値 6.2 重点領域「量と測定」「数と計算」	
4年	偏差値 5.3 重点領域「話すこと・聞くこと」「読むこと」	偏差値 5.4 重点領域「量と測定」「数量関係」	偏差値 5.5
5年	偏差値 5.9 重点領域「話すこと・聞くこと」	偏差値 5.9 重点領域「数と計算」	偏差値 6.1
6年	偏差値 5.2 重点領域「話すこと・聞くこと」	偏差値 5.4 重点領域「数と計算」	偏差値 5.4

目指す教師像

- 心身ともに健康で、「感謝」の心を持ち、明朗かつ実直な教師
- 自己研鑽に励み、資質と指導力の向上に努める教師
- 開かれた学校づくりに努め、地域から信頼される教師

目指す児童像

- 基礎的・基本的な内容を身につけた児童（確かな学力の育成）
- 自分で課題を見つけ、主体的に取り組む児童
- 自分の考えをはっきりと伝えることができる児童
- 自分と異なる立場や考えを受け止め、協力し合い、共に伸びようとする児童

CHECK

CHECK

評価の視点

- 全国標準学力テストの分析
- ・5段階の人数配分
- ・大領域・中領域における全国比較
- ・小問分析と全国通過率との比較
- 県学力調査の分析
- ・小問分析と県偏差値との比較
- 定着確認シートの実施と分析
- ・くり返し実施

評価の視点

- 単元テストの分析
- 学期末テストの実施と分析・実施方法と成果
- ノート、感想、自己評価などの分析
- 国語・算数ドリルタイムの実施と分析・実施方法と成果
- 家庭学習のチェックと内容充実

ACTION

PLAN

DO

ACTION

学力向上への具体的な取り組み

- 基礎・基本の定着（確実な実施と評価・称賛）
- ・国語・算数ドリルタイム（木・金）の実施
- ・学期末における算数・漢字テストの実施
〔全員合格まで実施〕
- ・読書活動の実施（月・火・水の読書タイム・給食準備時間の読書）
〔「手のひらの会」による読み聞かせの実施〕
- ・パワーアップタイムの実施（5・6年）
- ・授業のユニバーサルデザイン化によるわかる授業づくり
〔ICT機器の効果的な活用、フラッシュ型教材の活用など〕
- ・家庭学習の習慣化
〔授業とつながる家庭学習〕

- ・家庭学習の手引きの配付（学年×10分+10分）
〔保護者用手引きの活用による家庭との連携〕
- ・児童が活動する授業づくり
〔ねらい、活動、本時の基礎基本、学ぶべきことが明確な授業〕
- 活用力の育成
- ・資料や友だちの考えを比べたり、まとめたりしながら考えを深める授業づくり（板書計画・ノート指導をいかして）
- ・全国学テ、県学テ、定着確認シート等を活用した指導
- 授業改善
- ・現職教育を中心に、個人差への対応など本校の課題に取り組む
- ・研究会や研修への参加と伝達講習

学校課題研究

基礎学力の実態

- 平成26年2月実施の全国標準学力テスト(NRT)の結果では、学校全体の算数科の学力偏差値が、前年度より上回った。
(国語科 55.3 算数科 56.8 理科 57.8)

算数科

基礎的・基本的な学力を身に付け、活用する力を高める算数科学習指導（2年次）

研究内容 PLAN

- ◎ 児童の実態把握
 - ・学力テストの分析・全国学力調査・県学力調査・意識調査・生活・家庭学習アンケート
- ◎ 授業の充実(教材研究の重要性)
 - ・授業のユニバーサルデザイン化
 - ・家庭学習をリンクさせた授業の展開
 - ・自分の考えを持たせ意見交流ができる授業
 - ・思考の流れがわかる板書の工夫とノートづくり
- ◎ 日常指導の工夫(ドリルタイムの実施)
- ◎ 学習環境の整備(算数コーナーの設置)

評価の視点と手だて（授業評価）

- 全員1回以上の授業研究実施
- 事前事後研究会の実施
- 要請訪問の積極的活用

CHECK

ACTION

《学校評価の実践》

- ◎ 自己評価（教職員・児童のアンケート）の実践
- ◎ 学校関係者評価（保護者・区長・学校評議員）の実践と教育活動への組み入れ
- ◎ 評価を生かした教育課程の編成と実践

全体 CHECK

全体 CHECK